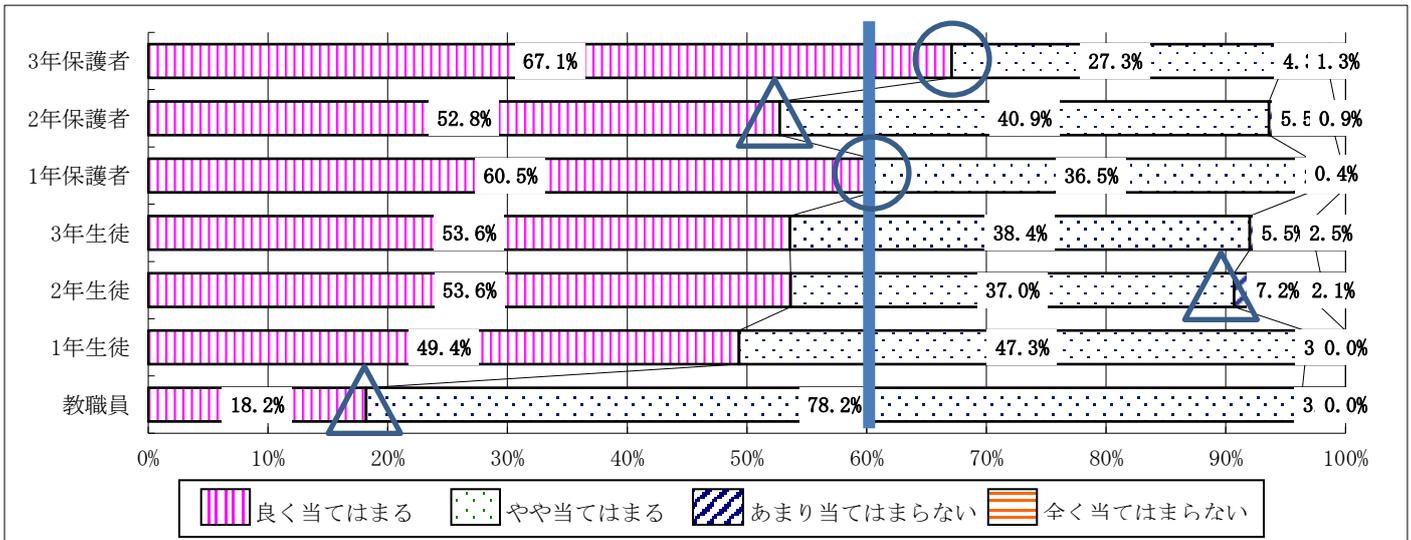


1 保護者 ご息またはご息女は、充実した高校生活を送っている。

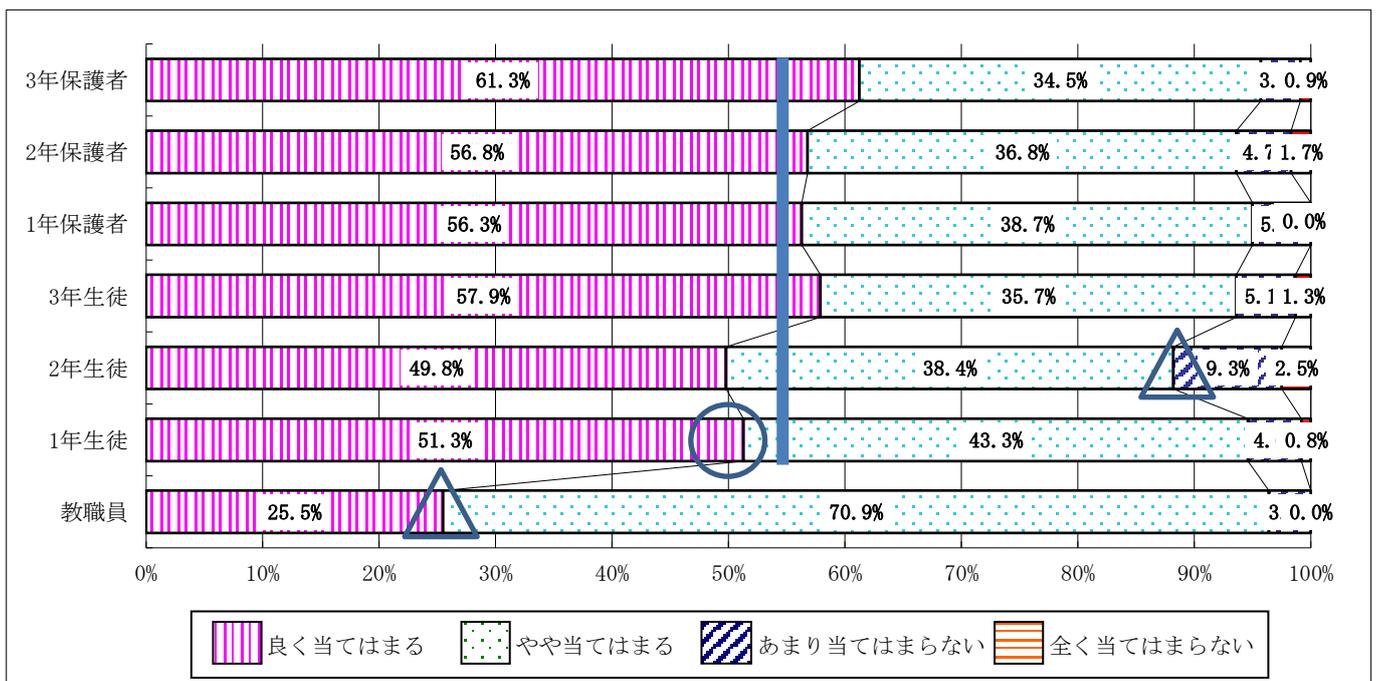
生徒 私は、充実した高校生活を送っている。

教職員 福商生は、充実した高校生活を送っている。

【令和元年度】



【平成30年度】



- ・保護者、生徒の「良く当てはまる」の割合が50%を超え、昨年度と比較し4%程度、一昨年度と比較すると7%増加した。
- ・2年生徒の否定的評価の割合が他学年と比べ高いが、昨年度よりも減少している。
- ・昨年度と比べ、教職員の「良く当てはまる」の割合がさらに減少している。

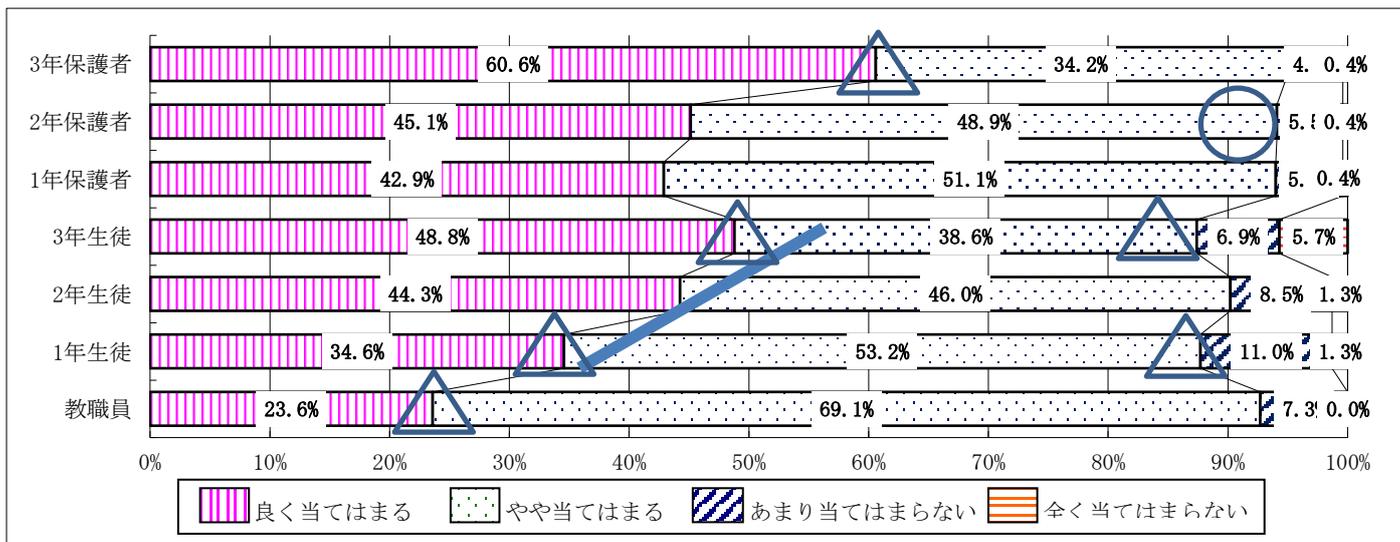
設問1 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和 元年度	3.44	3.54	3.15
平成30年度	3.44	3.52	3.22

2 保護者 ご息またはご息女は、福商で成長したと思う。

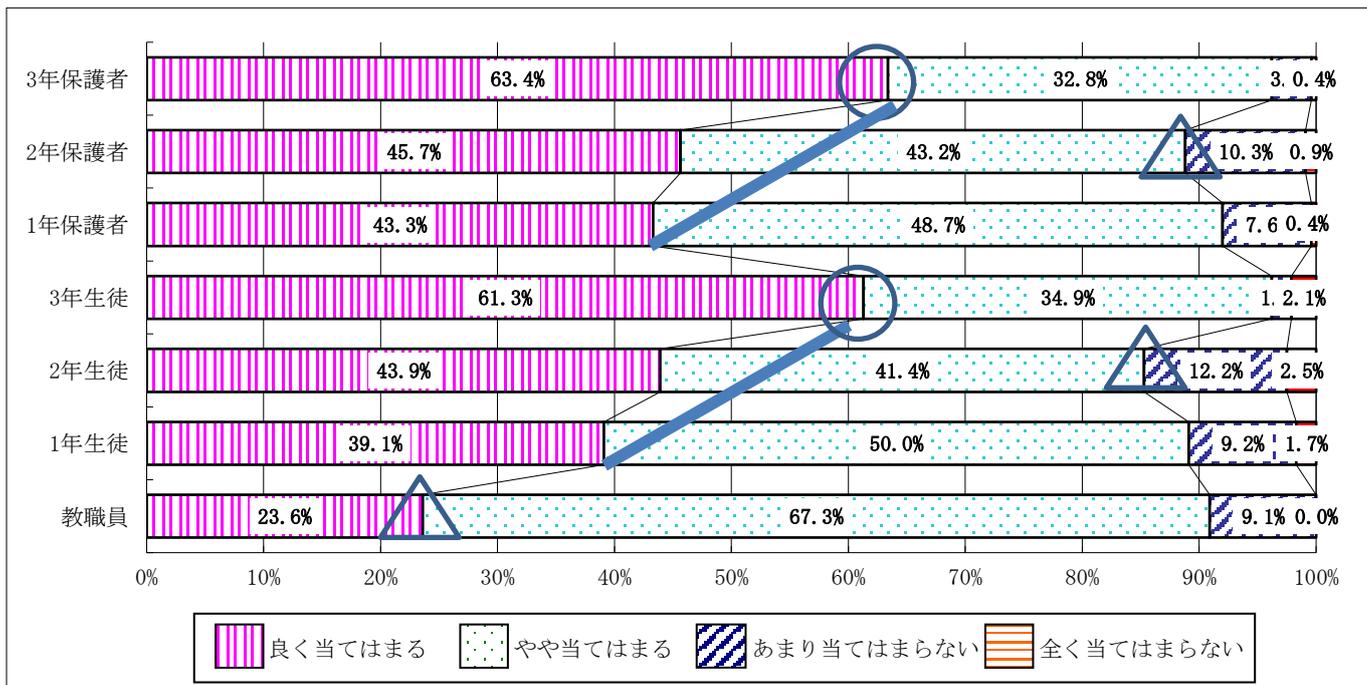
生徒 私は、福商で成長したと思う。

教職員 福商生は、本校で成長したと思う。

【令和元年度】



【平成30年度】



- ・ 生徒および保護者ともに、学年が進行するにつれて「良く当てはまる」の割合が増加する傾向がある。
- ・ 3年生は保護者・生徒とも、例年よりも「良く当てはまる」の割合が低く、3年生徒の否定的評価の割合が大きくなっている。1年生徒は「良く当てはまる」の割合が低くなった。
- ・ 昨年度と比べ、教職員の「あまり当てはまらない」の割合が減少した。

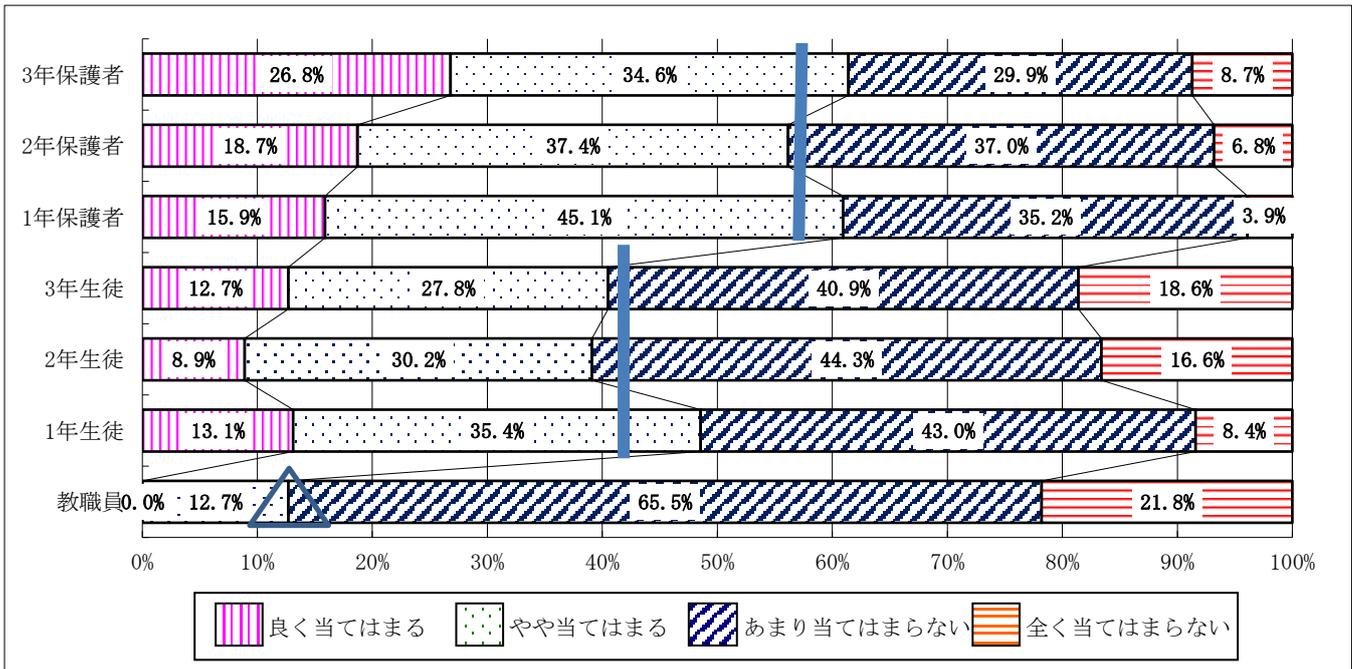
設問2 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和 元年度	3. 2 8	3. 4 3	3. 1 6
平成30年度	3. 3 6	3. 4 3	3. 1 5

3 保護者 ご息またはご息女は、家庭学習をしている。

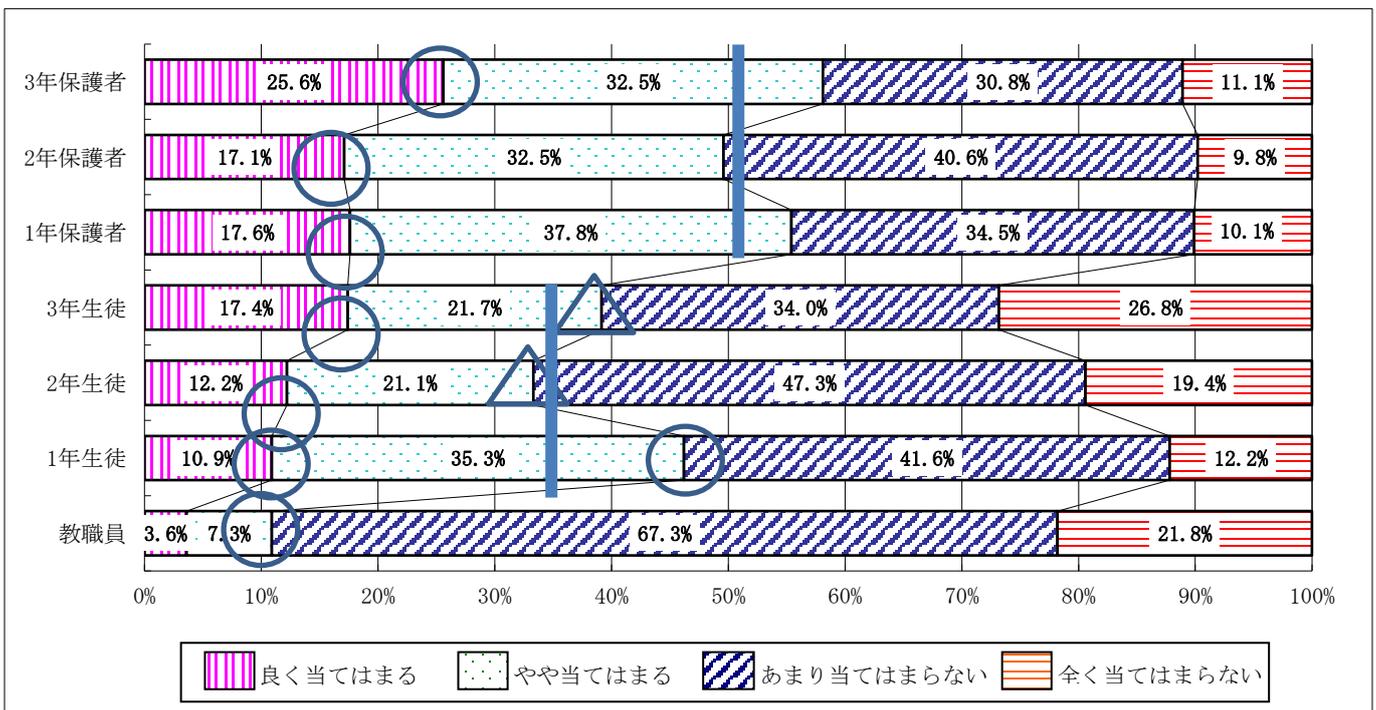
生徒 私は、家庭学習をしている。

教職員 福商生は、家庭学習をしている。

【令和元年度】



【平成30年度】



- ・昨年度と比べ、保護者・生徒の肯定的評価の割合が増加した。
- ・生徒は全体的に昨年度比べ、「良く当てはまる」の割合が減少している。
- ・教職員の「良く当てはまる」の割合は0となり、否定的評価の割合が昨年よりも増加した。

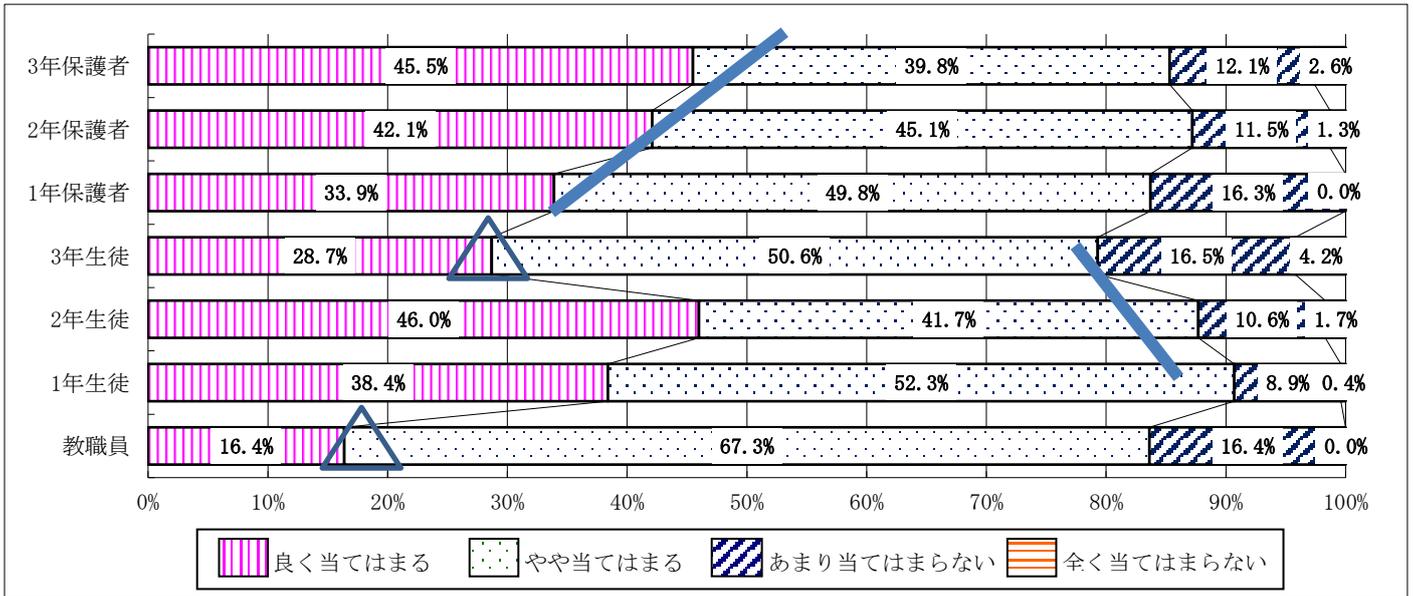
設問3 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和元年度	2.40	2.74	1.91
平成30年度	2.34	2.64	1.93

4 保護者 ご息またはご息女は、資格取得にがんばっている。

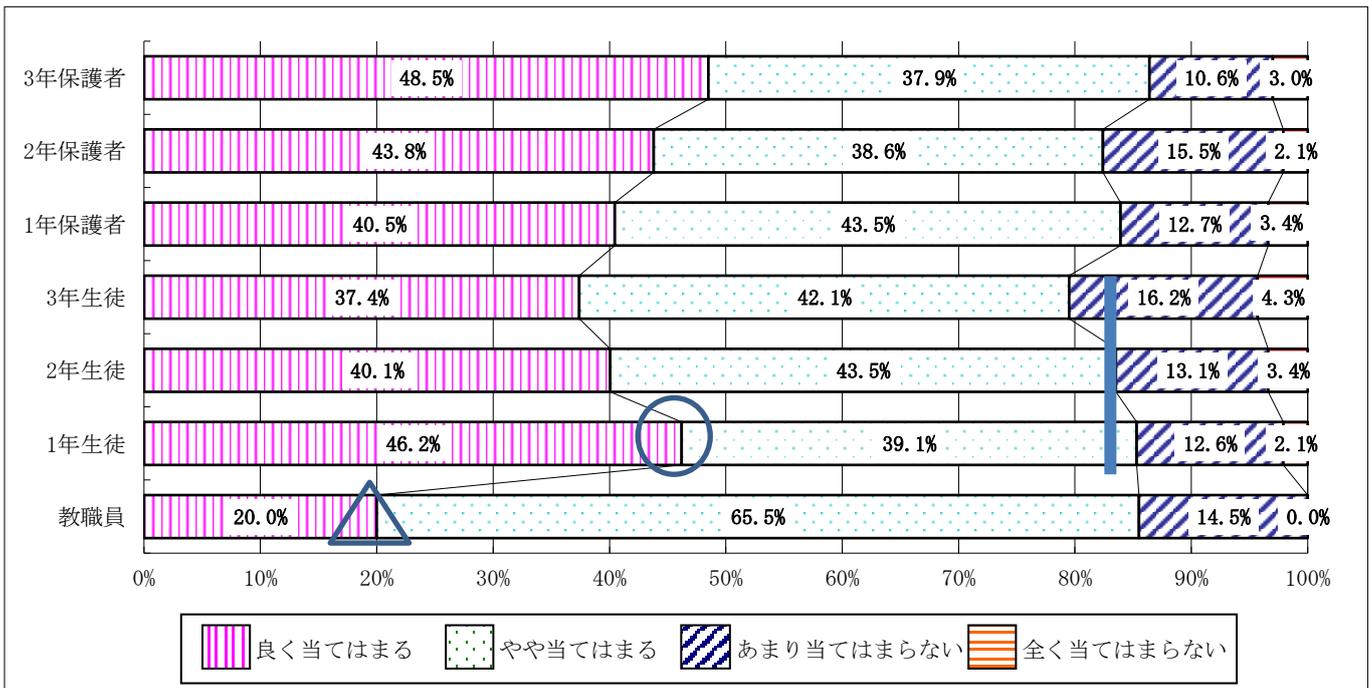
生徒 私は、資格取得にがんばっている。

教職員 福商生は、資格取得にがんばっている。

【令和元年度】



【平成30年度】



- ・生徒の資格取得への意識は、今年度は全体的に肯定的評価が高い（80%～91%）。ただし、3年生の「よく当てはまる」の割合が10%減少した。保護者の意識は、学年が進行するにつれて高くなっている。よって総合的に見ると本校生は、資格取得に力を入れて学習している傾向が見てとれる。
- ・一方、昨年度と比べ、教職員の「良く当てはまる」の割合がさらに減少している。

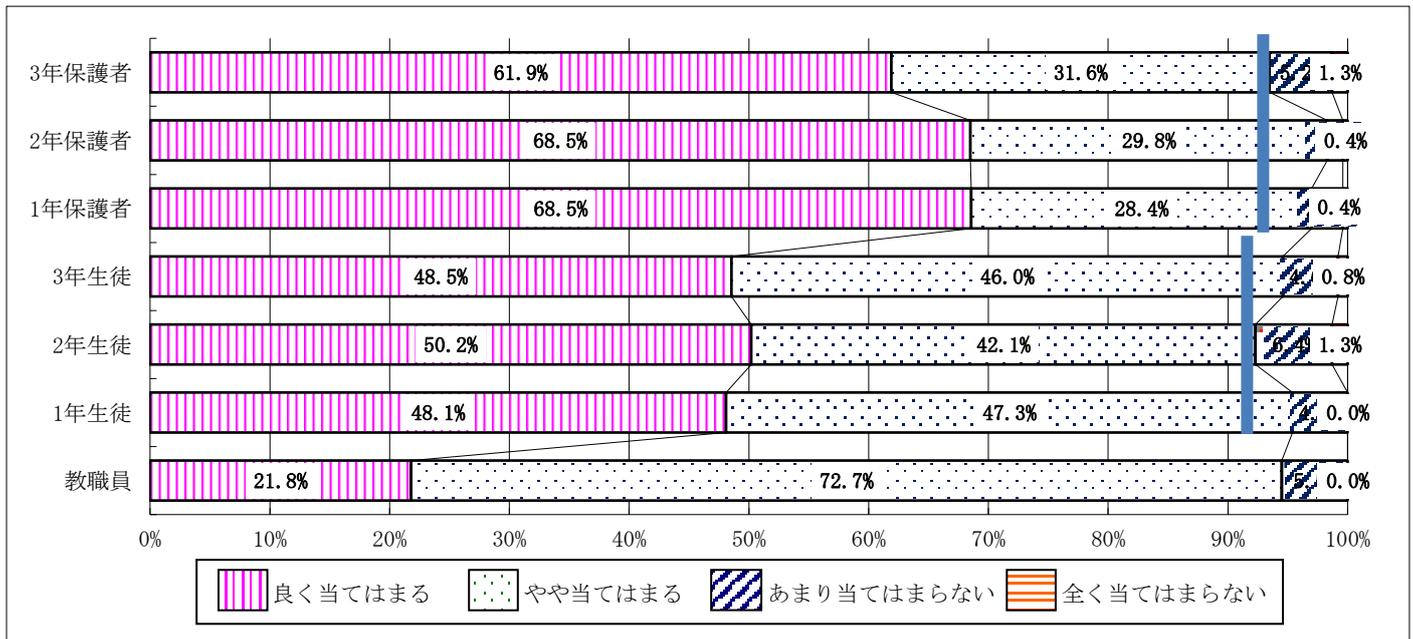
設問4 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和元年度	3.21	3.25	3.00
平成30年度	3.21	3.26	3.05

5 保護者 ご息またはご息女は、頭髪・服装がきちんとしている。

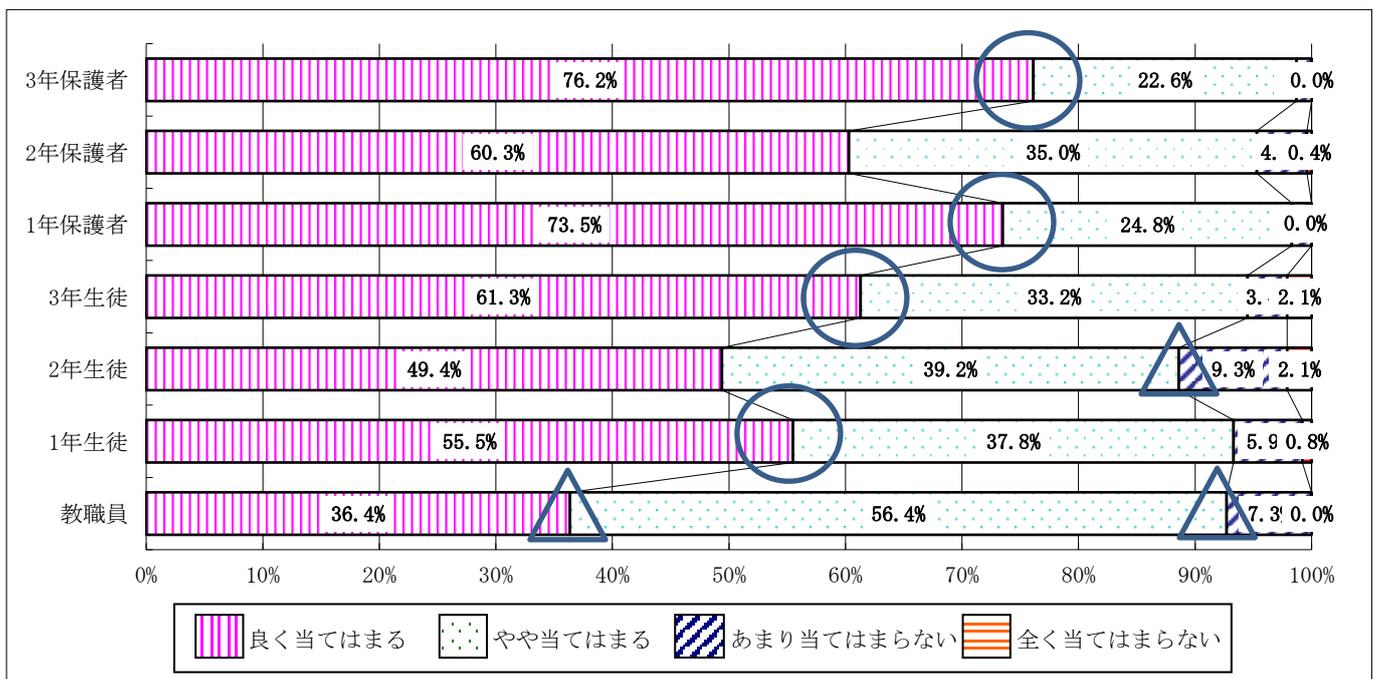
生徒 私は、頭髪や服装がきちんとしている。

教職員 福商生は、頭髪や服装がきちんとしている。

【令和元年度】



【平成30年度】



・昨年度と比べて保護者の肯定的評価の割合が若干減少した。3年生の生徒、保護者とも「良く当てはまる」の割合が昨年度より10%以上減少した。本校生は昨年度よりも服装・頭髪について意識が薄まったと言える。

・昨年度と比べ、教職員の「良く当てはまる」の割合がさらに大きく減少した。

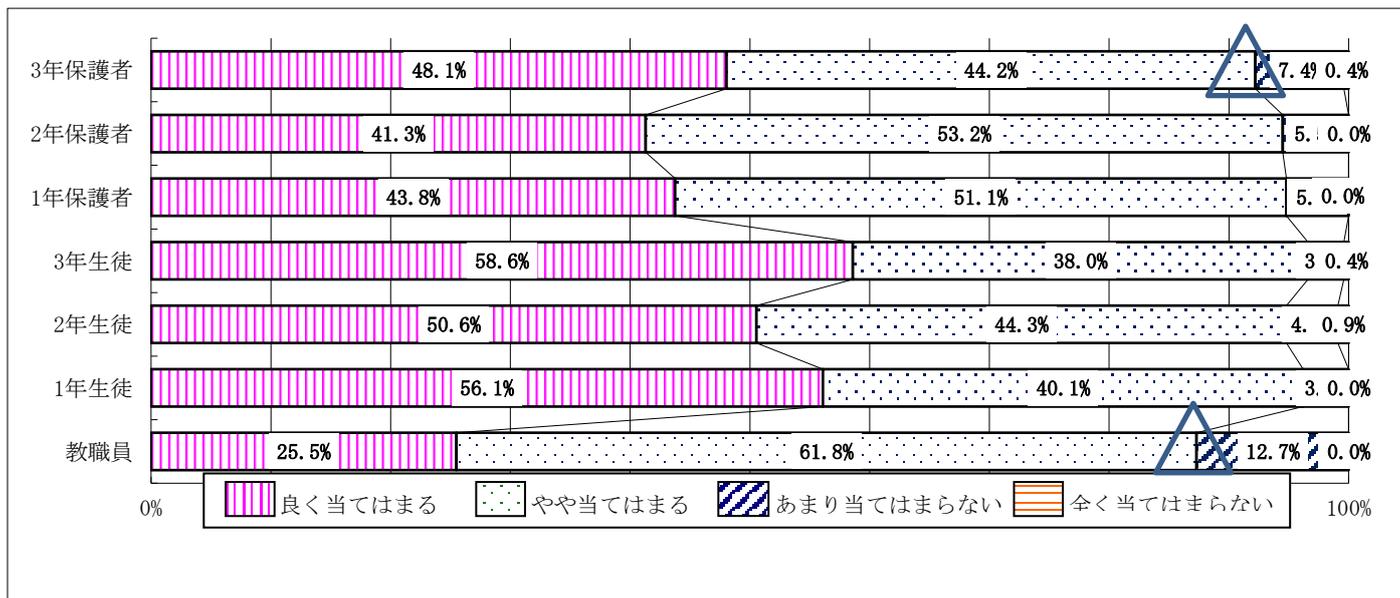
設問5 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和元年度	3.42	3.62	3.16
平成30年度	3.46	3.67	3.29

6 保護者 ご息またはご息女は、挨拶・マナー・言葉遣いができている。

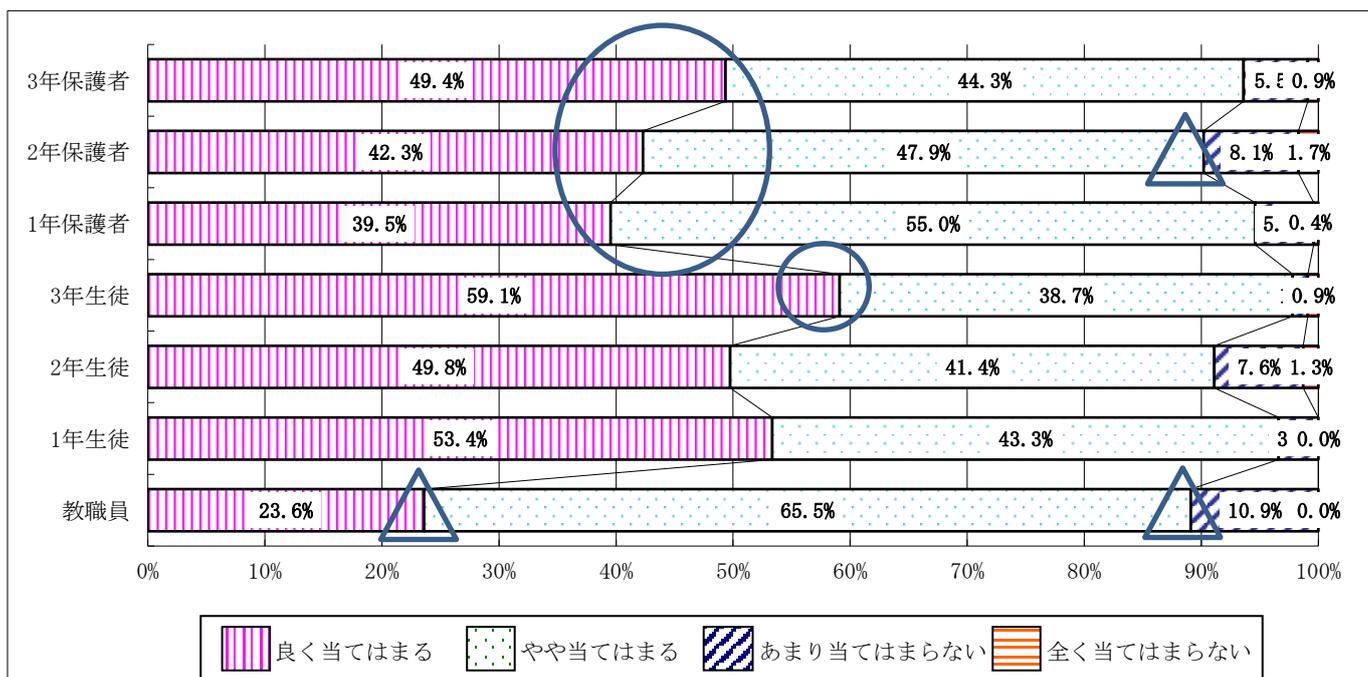
生徒 私は、挨拶・マナー・言葉遣いができている。

教職員 福商生は、挨拶・マナー・言葉遣いがよい。

【令和元年度】



【平成30年度】



- ・保護者の回答傾向は昨年度とあまり変わらないが、3年保護者の否定的評価の割合が高い。
- ・生徒全体の「良く当てはまる」の割合が増加した。学校生活を通じ成長していると感じられている。福商生全体として92%以上が肯定的評価を回答し、挨拶・マナー・言葉遣いについて心がけていることがわかる。
- ・教職員の「良く当てはまる」の割合が増加したが、否定的評価の割合も増加した。

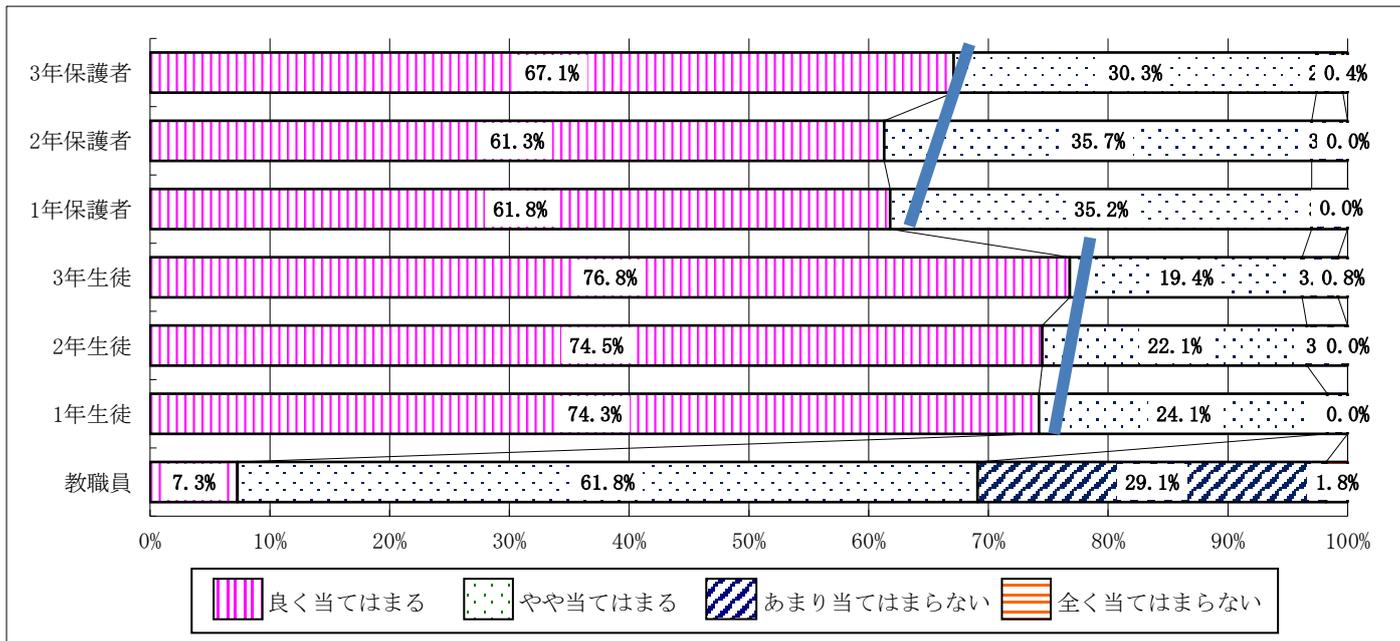
設問6 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和元年度	3.51	3.38	3.13
平成30年度	3.49	3.36	3.13

7 保護者 ご息またはご息女は、事故に遭わないよう心掛けている。

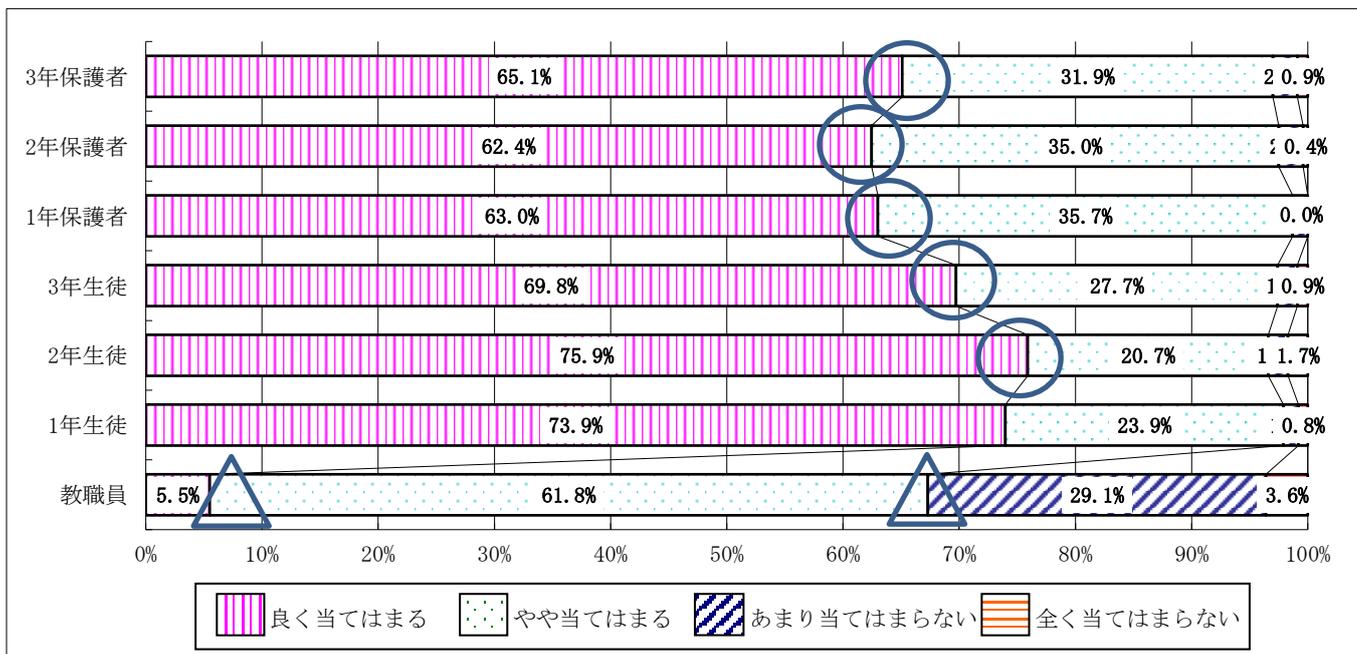
生徒 私は、事故に遭わないよう心掛けている。

教職員 福商生は、事故に遭わないよう心掛けている。

【令和元年度】



【平成30年度】

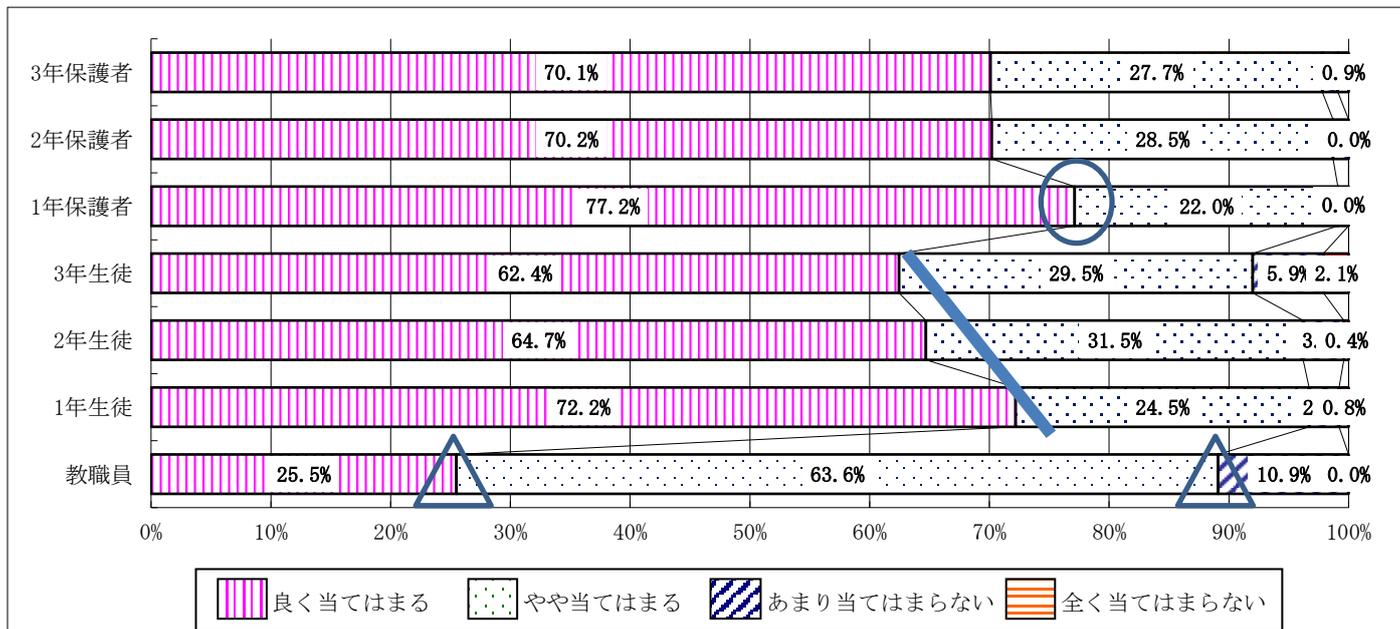


- ・生徒全体では昨年度と比べ「良く当てはまる」の割合が増加している。「良く当てはまる」の割合が年々増加傾向にある。保護者の肯定的評価の割合も97%以上であり、生徒の事故への意識づけができてきているといえる。
- ・教職員の「よく当てはまる」の割合が増加したが、昨年同様、生徒との意識の隔りがあるという結果が出た。

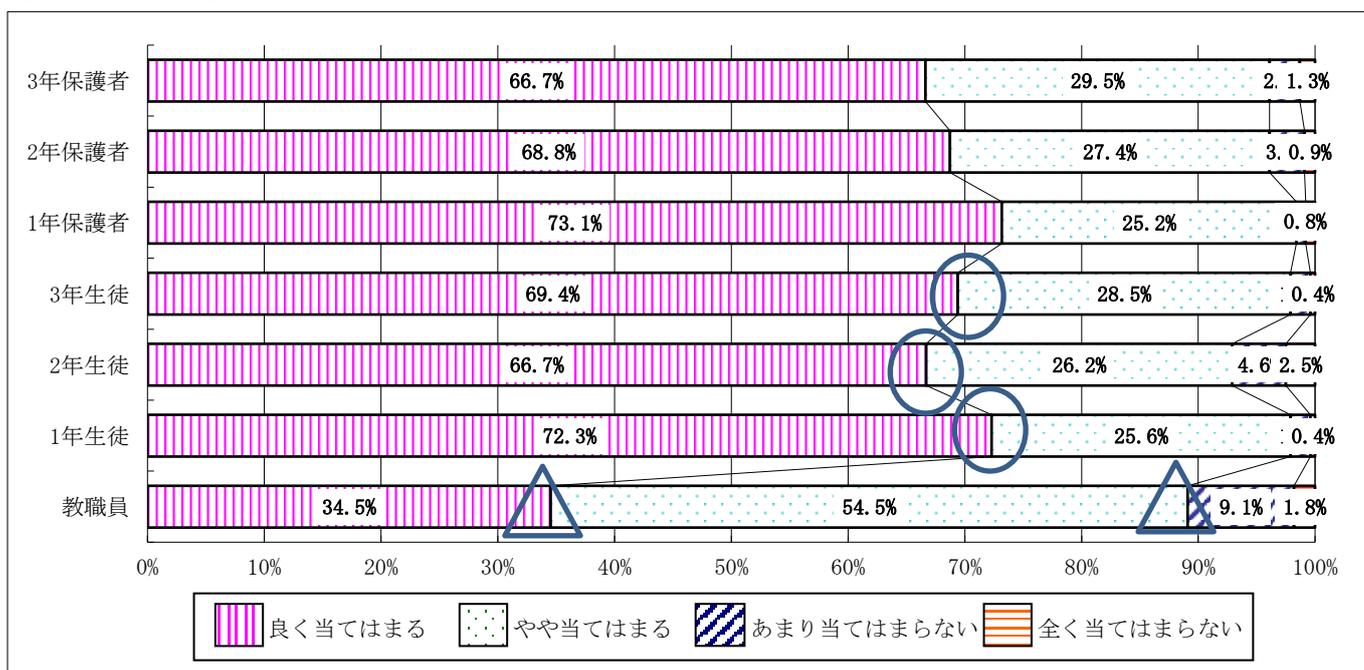
設問7 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和元年度	3.72	3.60	2.75
平成30年度	3.69	3.61	2.69

- 8 保護者 福商は、資格取得が魅力である。  
 生徒 福商は、資格取得が魅力である。  
 教職員 福商は、資格取得が魅力である。

【令和元年度】



【平成30年度】

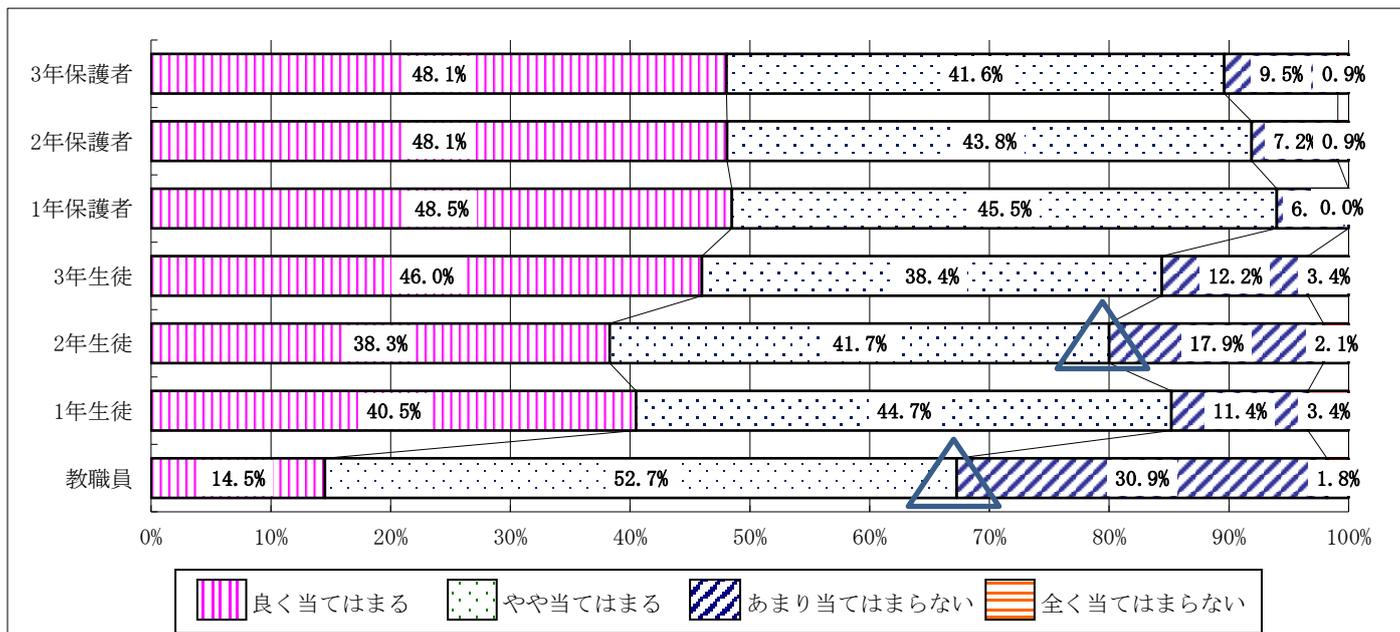


- ・昨年度と比べ、生徒の「良く当てはまる」の割合が全体的に減少している。1年生は資格取得への意識が高いが、学年が進むに従い意識が薄くなる傾向が見られる。1年保護者の「良く当てはまる」の割合も高い。生徒・保護者の肯定的評価の割合が例年通り9割以上あり、本校の魅力の一つが資格取得であることがうかがえる。
- ・教職員の「良く当てはまる」の割合が昨年度よりさらに減少し、逆に「あまり当てはまらない」が増加した。

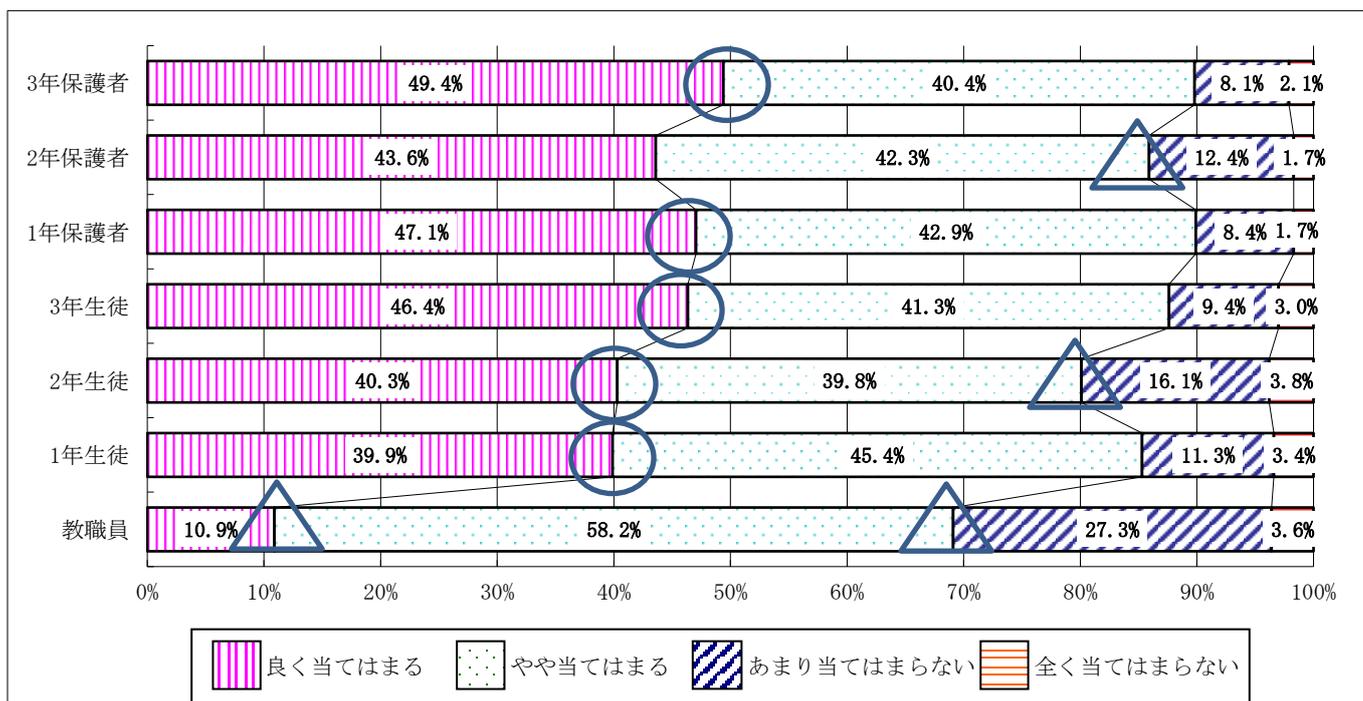
設問8 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和元年度	3.60	3.71	3.15
平成30年度	3.65	3.65	3.22

- 9 保護者 福商は、文武両道が実践されている。  
 生徒 福商は、文武両道が実践されている。  
 教職員 福商は、文武両道が実践されている。

【令和元年度】



【平成30年度】

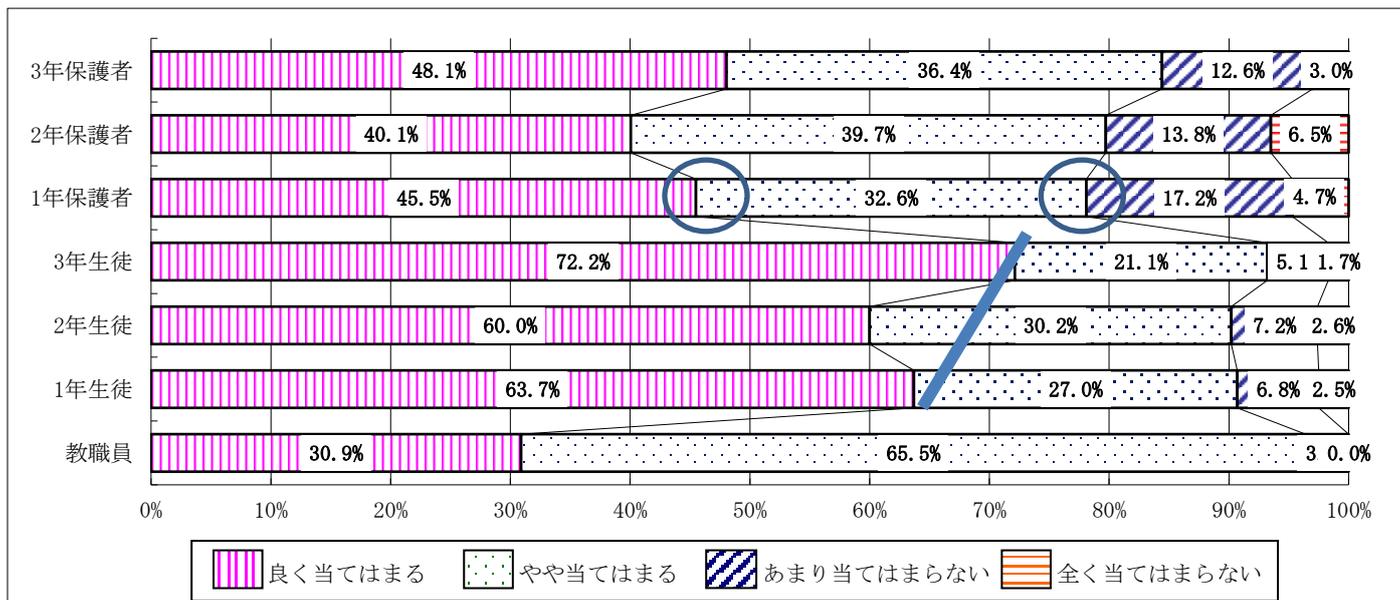


- ・ 全体的な傾向はあまり変わらない。2年保護者の肯定的評価の割合が昨年よりも減少した。
- ・ 2年生の保護者・生徒の「あまり当てはまらない」が増加し、他学年より否定的評価が多い傾向がある。
- ・ 昨年度と比べ、教職員の「良く当てはまる」が増加した一方、否定的評価の割合も増加した。

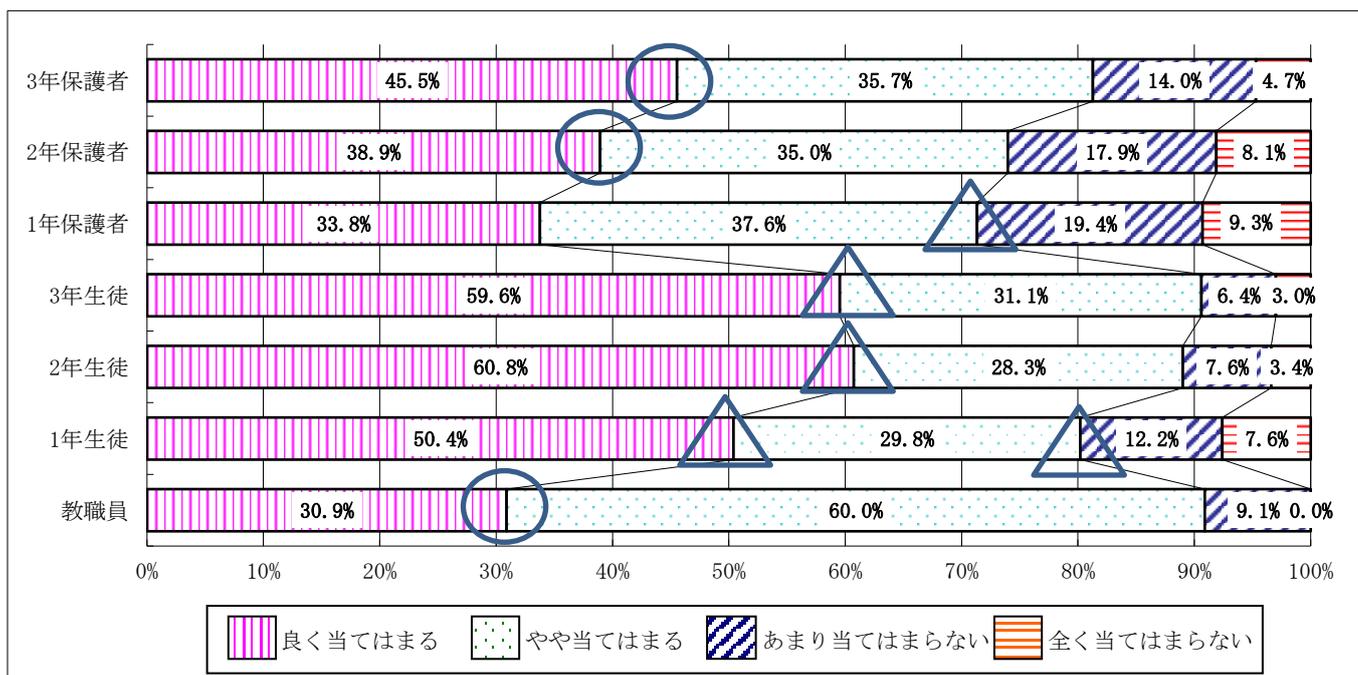
設問9 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和元年度	3.22	3.39	2.80
平成30年度	3.23	3.33	2.76

- 10 保護者 福商には、スクールカウンセラーがいて、悩み相談ができることを知っている。  
 生徒 福商には、スクールカウンセラーがいて、悩み相談ができることを知っている。  
 教職員 本校は、スクールカウンセラーを含め、教育相談の環境が整っている。

【令和元年度】



【平成30年度】



- ・昨年度と比べ1年生徒・保護者の「良く当てはまる」の割合が大きく増加した。また、保護者は学年の上昇につれて肯定的評価の割合が増加する傾向にあり、徐々に認知されていると言える。
- ・昨年と比べ生徒の「良く当てはまる」の割合が増加している。90%以上の生徒が、肯定的評価の回答をしており、SCの認知度は高くなっていると言える。

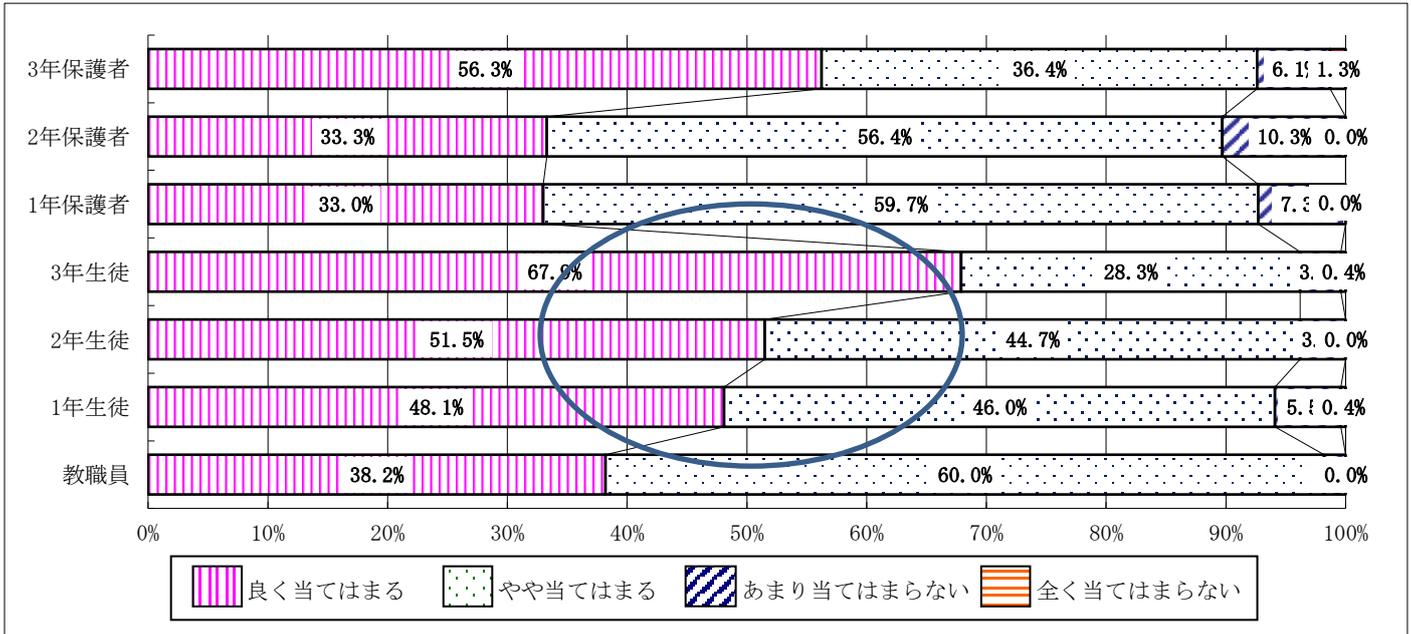
設問 10 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和元年度	3.54	3.21	3.27
平成30年度	3.39	3.08	3.22

1 1 保護者 福商では、進路情報が提供され、子どもたちの進路希望が実現されている。

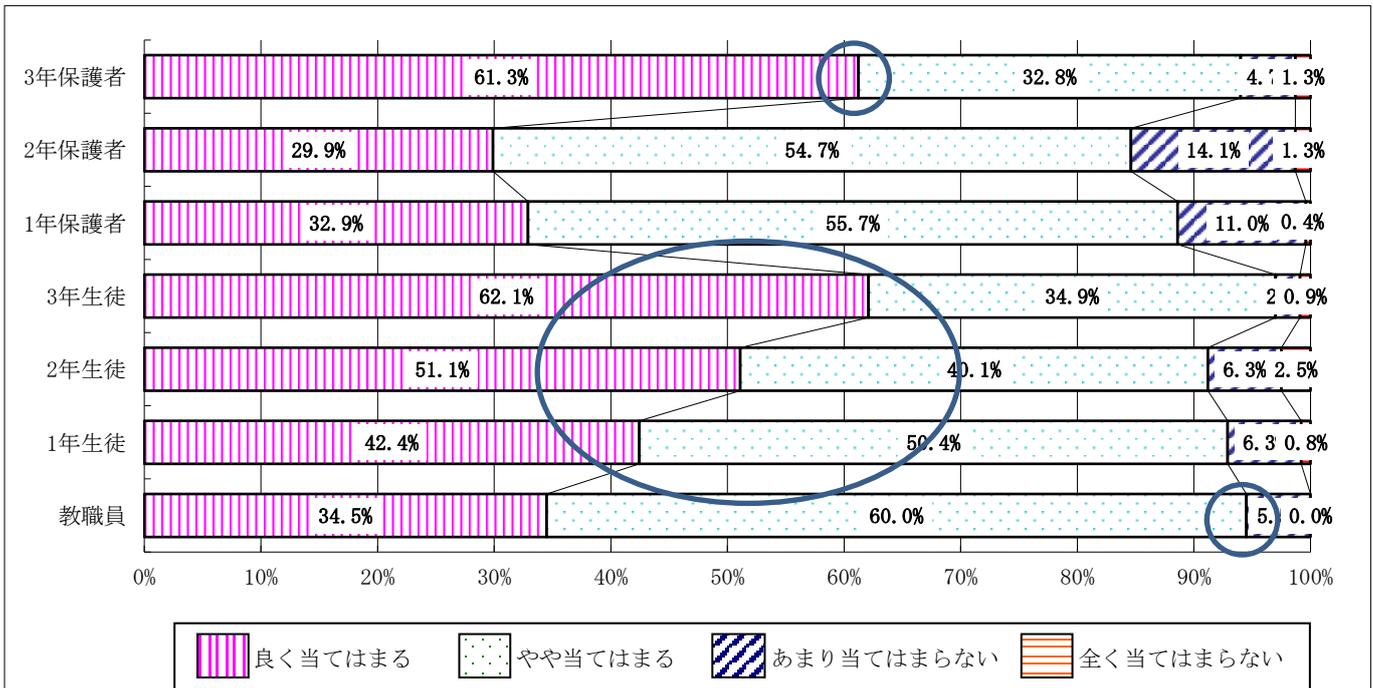
生徒 福商では、進路情報が提供され、進路希望が実現されている。

教職員 本校は、進路情報が提供され、進路希望が実現されている。

【令和元年度】



【平成30年度】



・昨年度と比べ、保護者の否定的評価の割合が減少している。

・例年同様に生徒の学年が上がるにつれて、生徒の「良く当てはまる」の割合が増加する傾向が見られる。割合そのものも昨年度よりも増加している。また、昨年度と比べ、教職員の肯定的評価の割合が増加した。

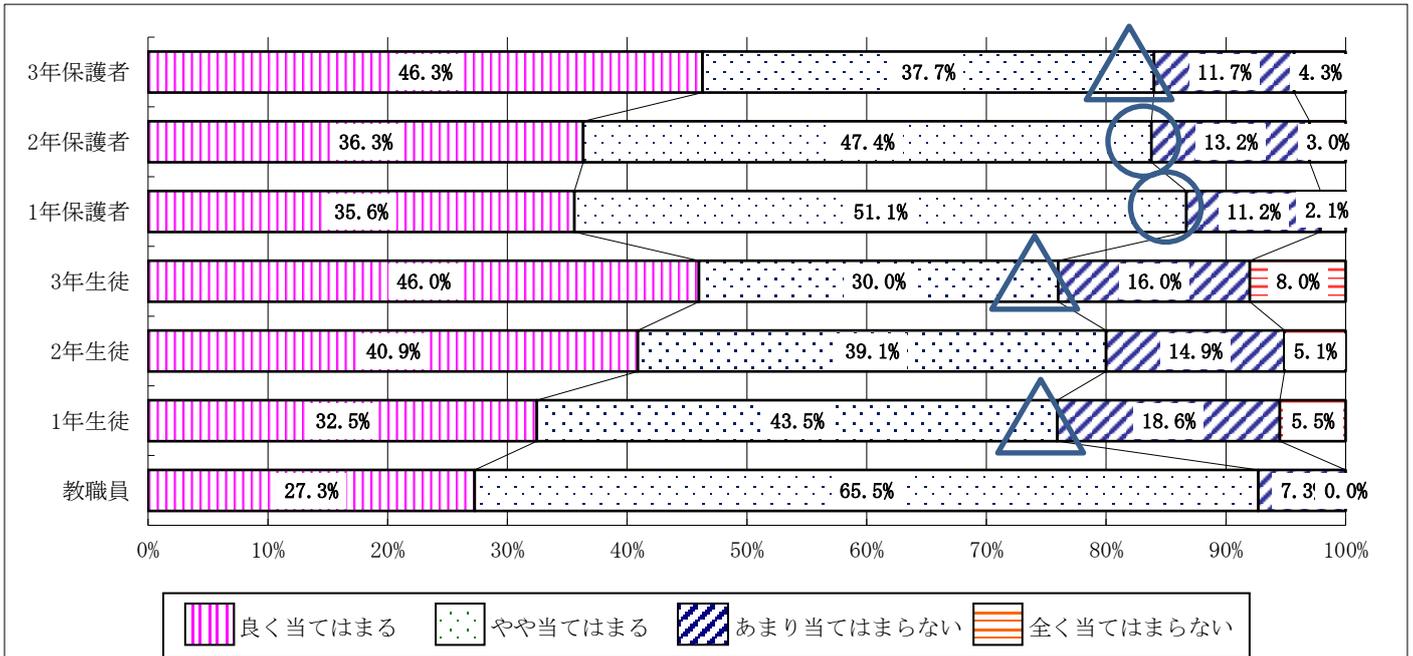
設問 11 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和 元年度	3. 5 1	3. 3 2	3. 3 6
平成 3 0 年度	3. 4 4	3. 2 9	3. 2 9

1 2 保護者 家庭において、子どもと学校の出来事などについて会話をしている。

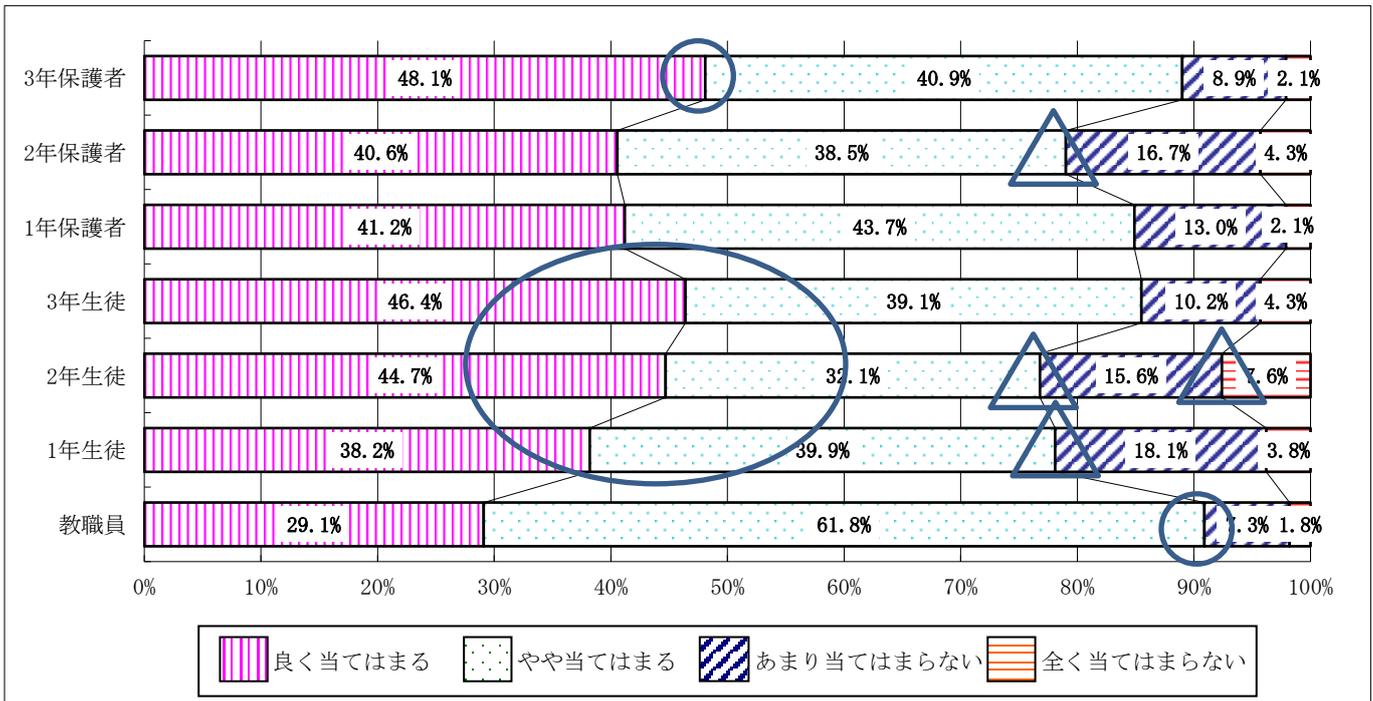
生徒 家庭において、保護者と学校の出来事などについて会話をしている。

教職員 本校は、生徒の状況や教育活動等について、広報に努めている。

【令和元年度】



【平成30年度】



・全体的には否定的評価の割合が増加している。生徒は学年が上がるにつれて、生徒の「良く当てはまる」の割合が増加していく傾向が見られる。特に3年生徒、保護者が肯定的評価の割合が高く、進路相談等から会話が増えていると考えられる。

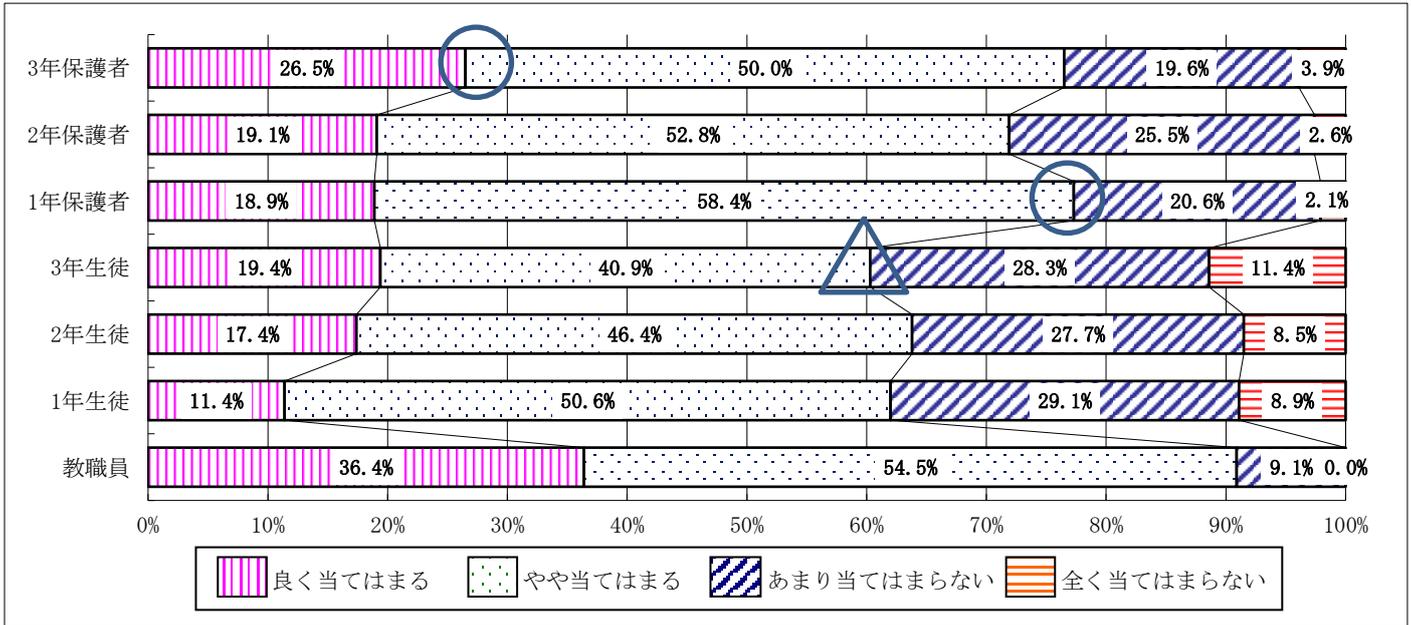
設問 12 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和元年度	3.11	3.21	3.20
平成30年度	3.18	3.25	3.18

1 3 保護者 私は、福商の「教育ビジョン」の内容を理解している。

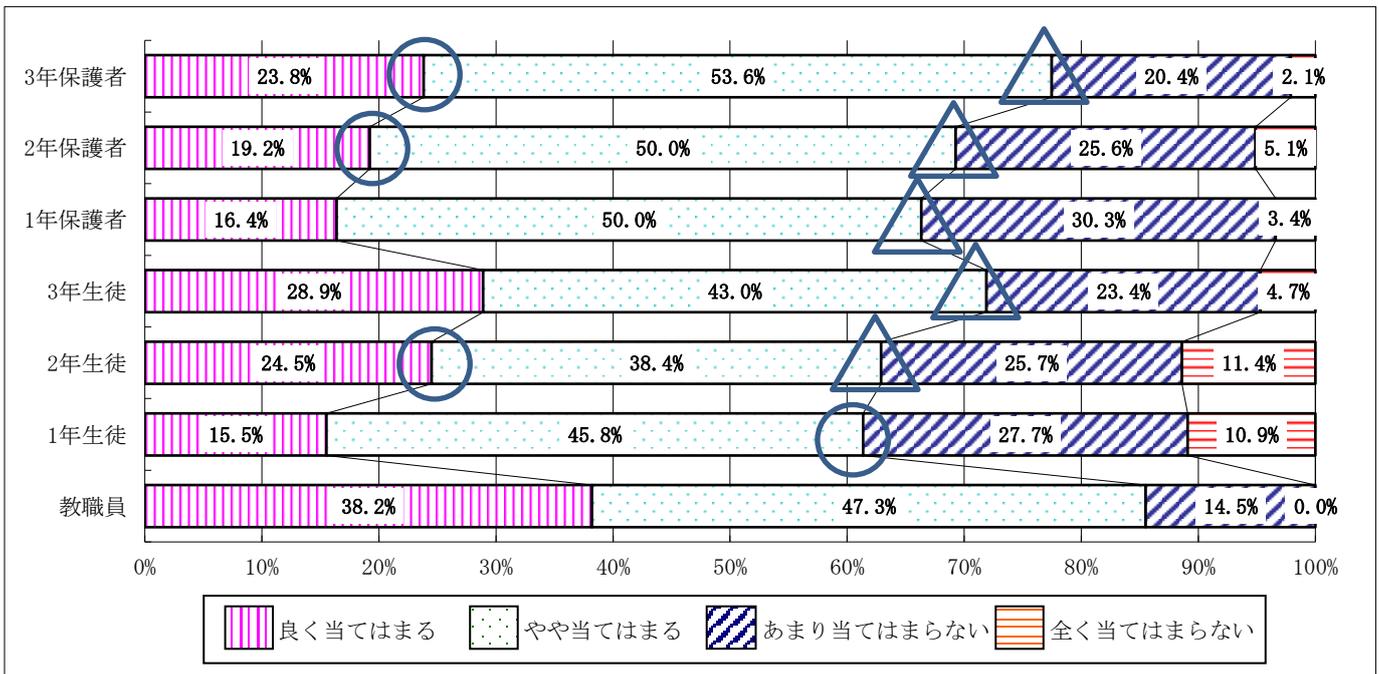
生徒 私は、福商の「教育ビジョン」の内容を理解している。

教職員 私は、福商の「教育ビジョン」の内容を理解している。

【令和元年度】



【平成30年度】



- ・ 全体的に否定的評価の割合が減少している。生徒の学年が上がるにつれ、本校の「教育ビジョン」の内容を理解している割合が高くなっている。
- ・ 3年生徒の否定的評価の割合が大きく増加しており、評価点平均を押し下げた要因と考えられる。

設問 13 評価点平均値	生徒全体	保護者全体	教職員
令和 元年度	2. 6 9	2. 9 4	3. 2 7
平成 30 年度	2. 7 9	2. 8 7	3. 2 4

(参考)

### 評価点平均の考え方

評価内容の各回答を、以下の評価点に置き換える。

- A よく当てはまる を 4点
- B やや当てはまる を 3点    A,B の2項目を「肯定的評価」として扱う。
- C あまり当てはまらない を 2点
- D まったく当てはまらないを 1点    C,D の2項目を「否定的評価」として扱う。

生徒・保護者・教職員の回答割合を上記評価点で加重平均したものを評価点平均として算出している（小数第2位未満は四捨五入し、小数第2位まで表示する）。

例（ある学年の生徒の回答割合）

$$\begin{array}{l} \text{Aの割合 } 30\% \qquad \text{Bの割合 } 50\% \qquad \text{Cの割合 } 15\% \qquad \text{Dの割合 } 5\% \\ 4 \times 0.3 \quad + \quad 3 \times 0.5 \quad + \quad 2 \times 0.15 \quad + \quad 1 \times 0.05 = \boxed{3.05} \end{array}$$

もし、回答割合が等しく25%ずつ場合は、評価点平均は $\boxed{2.50}$ となる。

（評価中央の値であり、各項目の評価点に対する高低の目安になる）